

新規採用希望（総合土木職）の諸君へ

来たれ！ 埼玉へ！

大地が君を待っている！！



埼玉県のマスコット
コバトン

『まず初めに埼玉県の特徴を教える』

1. 高い耕地率 農地面積は72,700ha、耕地率19.3% ←全国4位！
2. 大消費地の中の生産地 県全域が都心から100km圏内、新鮮で高品質な農産物を首都圏市場に出荷！
3. 変化に富んだ地形 県土は山間から低地を有し、多彩な農産物の生産が可能！
4. 利根川・荒川の2つの大河川 大河川から取水される農業用水。大半が河川に戻り、下流域で反復利用！

教えてコバトン！



- 人口は？ 7.321千人
- 面積は？ 3.798km²
- 県の木は？ けやき
- 県の花は？ サクラソウ
- 県の鳥は？ シラコバト

〈事業の内容〉

埼玉県が力を入れる3つの農業農村整備事業

①大区画化と集積により担い手を育成する「ほ場整備事業」

- 担い手への農地集積を促進するためには、小区画で道路が狭い農地の生産条件を向上する必要がある。

そもそもほ場整備事業とは？

農地の区画を整理するとともに、用排水路、農道、暗渠排水等の整備を行い、生産性の高い農地を作る事業です。

埼玉県独自の取組

埼玉型ほ場整備事業

現在の農地の区画、道路や水路などを活用

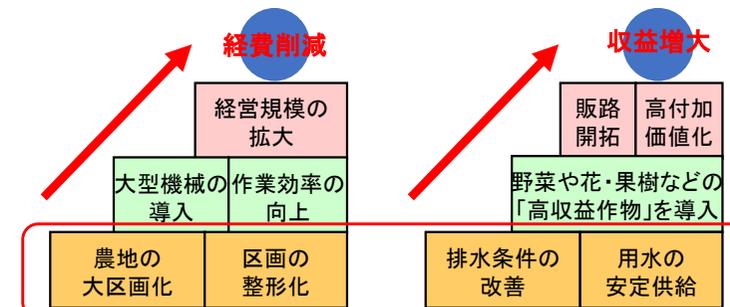
- ・区画を活かした整備なので、短期間で整備可能（一般的なほ場整備事業の約半分の工期）
- ・農業者の費用負担がない（道路拡幅等に必要な用地を地権者から寄付していただきます。）

なぜ ほ場整備が必要？

現在の課題...農業従事者の高齢化
農業後継者の減少

目指す農業...儲かる農業の実現
経費削減、収益増大

ほ場整備により、**経営課題解決**の下地を作る！



②水利施設の長寿命化を図る「かんがい排水事業」

- 地域の農業を支えてきた基幹的農業水利施設には、老朽化が進み、補修が必要となっている施設がある。

従来…**全面改修型**（壊れたら作り直す）

今後…**補修型**（壊れる前に補修する）

- 既存施設の使える部分は、手を入れ**長寿命化**を図る！

③災害を防止し、地域の安全を守る「農地防災事業」

- 排水機場や農業用ため池の整備を行い、台風や集中豪雨地震等の自然災害から地域を守る。

- ポンプ場の整備→農地の湛水被害※を減らす。
ため池の整備 →地域の安心・安全度向上。

※湛水被害…排水能力の不足により農地に不用な水がたまること。



施工前

施工後



ICT技術を活用した農業農村整備事業

農業農村整備事業でも、ICT化が進んでいます。



UAV測量用のドローン活用現場



ドローン基地局

ドローン技術を用いて農地の測量を行います。

ドローンに搭載したカメラでは場等の工事現場を撮影することで高精度な3次元データを作成しています。

作成したデータをもとに、正確な機械の操縦を実現しています。

日々進化する土木技術を取り入れることが、農業土木の発展と職員の負担軽減につながります。

新技術の活用が進められています。

下の写真は、頭首工の耐震補強工事を実施している状況です。
3Dレーザースキャナーによる測量成果を活用し、ICT建機により工事しています。



一級河川大落古利根川に
設置された古利根堰
(越谷市・松伏町)



農林振興センターの位置と管内図

